**仆が死のうと思ったのは**

中島美嘉

作：秋田ひろむ

作曲：秋田ひろむ

仆が死のうと思ったのはウミネコが桟橋（さんばし）で鳴（な）いたから

波の随意（まにまに）に浮（う）かんで消える過去も啄（つい）ばんで飛んでいけ

仆が死のうと思ったのは誕生日に杏（あんず）の花が咲いたから

その木漏（こも）れ日でうたた寝（ね）したら虫の死骸(しがい)と土になれるかな

薄荷飴（はっかあめ）漁港（ぎょこう）の灯台（とうだい）錆びたアーチ橋　舍てた自転車

木造（もくぞう）の駅のストーブの前でどこにも 旅立（たびだ）てない心

今日はまるで昨日みたいだ　明日を変えるなら 今日を変えなきゃ

分かってる　分かってる　けれど

わかってる　わかってる　けれど

仆が死のうと思ったのは　心が空っぽになったから

満たされないと 泣いているのは　きっと 満たされたい と 愿うから

仆 が 死のう と 思った のは　靴紐（くつひも）が解（と）けたから

結（む）びなおすのは苦手なんだよ　人との繋（つな）がりもまた然（しか）り

仆が死のうと思ったのは　少年（しょうねん）が仆を見つめていたから

ベッドの上で土下座してるよ　あの日仆にごめんなさい と

パソコンの薄（うす）明（あ）かり　 上階（じょうか）いの部屋の生活音（せいかつおん）

インターフォンのチャイムの音　耳を塞（ふさ）ぐ 鳥かごの少年（しょうねん）

見えない敵と戦（たたか）ってる　六畳一間（ろくじょうひとま）の　ドン・キホーテ

ゴールはどうせ丑（みにく）いものさ

仆が死のうと思ったのは　冷たい人と言われたから

愛されたいと泣いているのは　人の温もりを知ってしまったから

仆が死のうと思ったのは　あなたが綺麗に笑うから

死ぬことばかり考（かんが）えてしまうのは　きっと生きる事に真面目すぎるから

仆が死のうと思ったのは　まだあなたに出（で）会（あ）ってなかったから

あなたのような人が生まれた　世界を少（すこ）し好きになったよ

あなたのような人が生きてる　世界に少し期待（きたい）するよ